

東北歯科技工専門学校校友会 50 周年記念講演会

「これまでの歯科、そしてこれからの歯科を展望する」

桑田 正博

歯科医療のあり方が劇的に変化してきている。日本固有の歯科医療体系が世界からの関心を集める時、“日本発”の日がくるのではないかと思っている。他の医療分野においても高度化、専門化（細分化）が進んできている今日、歯科においても例外ではなく、他分野と調和のとれたレベルで進化して行くと思う。明日の“歯科のあるべき姿”を積極的に展望したいと思う。

「インプラント補綴における審美的アプローチ」

関 克哉

講演では、過去のアナログ的な技法に加え、歯科用 CAD/CAM の普及によりアナログ技工では至難だった高度な技術を容易に獲得できるようになった事で、現在行っているデジタル技工とアナログ技工のコンビネーションによるインプラント歯周組織に調和した補綴物製作のステップについて解説したい。

「生産性向上への取り組み」

菅原 克彦

現在の歯科技工業界は深刻な人手不足を迎えました。生産性向上にむけた歯科用 CAD/CAM や 3D プリンターの運用による、労働時間の短縮など問題解決にむけた取り組みを紹介させていただきます。

「義歯と等脚台形と私」

平栗 布海

「大野の等脚台形法」が生まれて 20 年余り、その存在価値は衰えることなく、多くの後進によって応用され、益々進化している。今回は私の義歯技工を力強く支えてくれた、等脚台形法の解釈と有用性をお伝えしたい。